

じょうとうせいけいが
ぜんしんますい
しゅじゅつ
かた
城東整形外科で全身麻酔をかけて手術をうける方へ

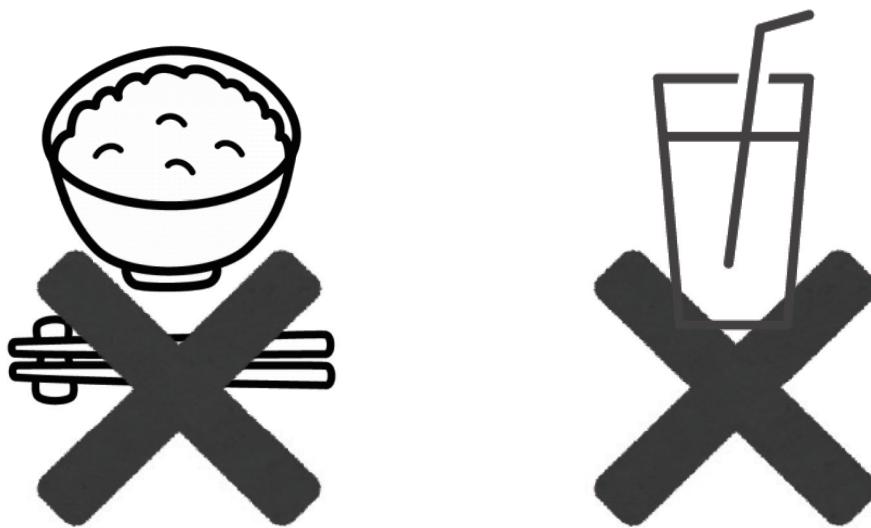
ぜんしんますい

全身麻酔について

しゅじゅつ き よ
手術が決まつたらお読みください。

わ たんとうますいかい たず
分からぬことがあつたら、担当麻酔科医にお尋ねください。

しゅじゅつ まえ た の
手術の前は、食べたり飲んだりできません。



た の い なか のこ じょうたい ますい
食べたり飲んだりしたものが、胃の中に残っている状態で麻酔をかけると
い なか ぎやくりゅう はい なが おも はいえん お
胃の中のものが逆流して肺に流れこみ、重い肺炎を起こすことがあります。
かなら せいげん
必ず制限をまもってください。

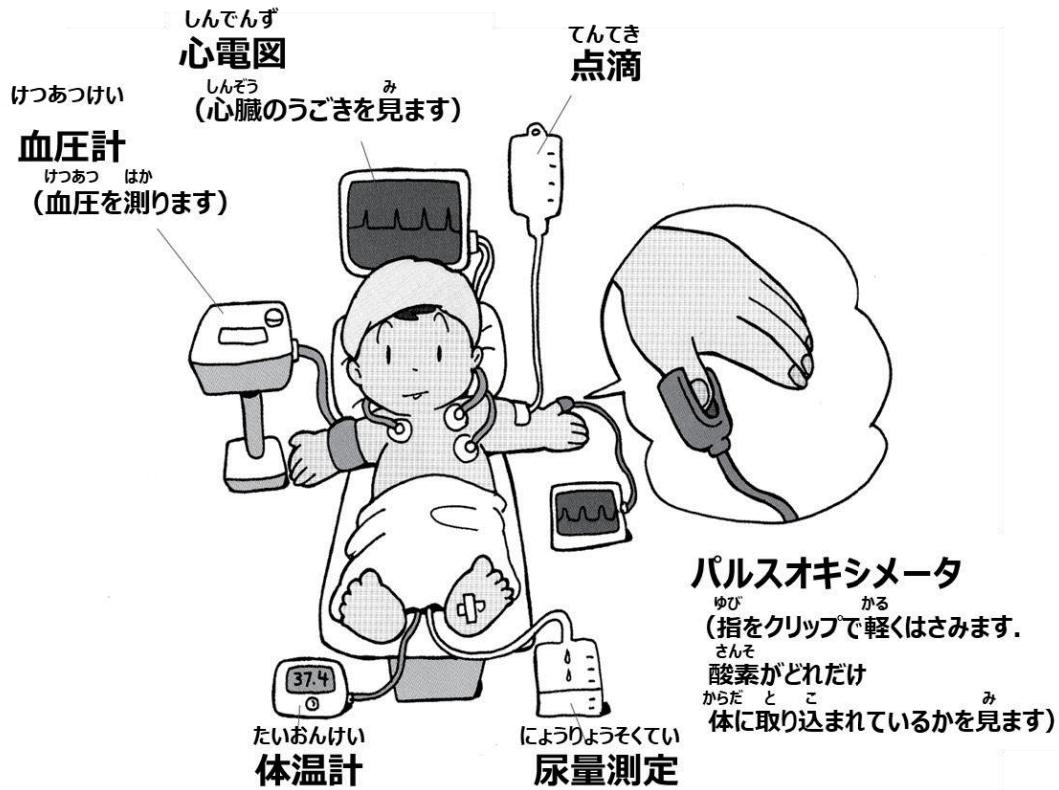
しゅじゅつぜんじつ くすり だ の
手術前日の薬は、出されたものだけ飲んでください。



しゅじゅつ さい けつあつ さ ち と くすり
手術に際して血圧が下がったり、血が止まりにくくなる薬があります。
わたし かんじや くすり の
私たち、患者さんがどんな薬を飲んでいるか、わかっていますので
しんぱい
心配しないください。

びょうしつ てんてき
はじめに病室で点滴をとります.

しゅじゅつしつ はい しんでんす けつあつけい
手術室に入ったら、心電図や血圧計などのモニターをつけます.



かお しんこきゅう かえ
顔にマスクをあてますので、深呼吸をくり返してください.
さんそ す

じゅうぶんに酸素を吸っていただきます.



てんてき くすり とうよ

点滴から薬が投与されて、いつのまにか眠ってしまいます。

ねむ



こきゅう たす

くち のど おく きかん い

呼吸を助けるチューブを口から喉の奥の気管に入れます。

かんせん ねむ

い いた かん

完全に眠ってから入れるので痛みは感じません。



ごうせいじゅし
合成樹脂の
やわらかいチューブです

チューブの代わりに、やわらかいマスクを入れることもあります。

かた うで あし しゅじゅつ まつしょうしんけい おこな
肩, 腕, 足などの手術では末梢神経ブロックを行います.
まつしょうしんけい しゅじゅつご いた と のぞ ますい

末梢神経ブロックは手術後の痛みを取り除くための麻酔です.

しゅじゅつ ばしょ
手術する場所によって
くび また つね
首, わき, 股の付け根,
ひざ うらがわ おこな
膝の裏側などに行います



かんぜん ねむ おこな いた かん

完全に眠ってから行うので痛みは感じません.

ちようおんぱがぞう
超音波画像で
しんけい かくにん
神経を確認しながら
おこな
行います



せぼね しゅじゅつ

背骨の手術では行いません.

(以前, 入れた金属を抜くだけの手術でも行わないことがあります)

かた しゅじゅつ くび くだ い

肩の手術では首にカテーテル（管）を入れます。



しゅじゅつご

いわかんのこ

手術後しばらく、しびれや違和感が残ることがあります。

つうじょう すこ

通常は少しづつ、よくなっています。



しゅじゅつちゅう ますい かんせん ねむ

なに わ

手術中は麻酔で完全に眠っているため、何も分かりません。

ますいかい

麻酔科医が

そばにいて患者さん

に変化がないか

みまも

見守っています

す～



しゅじゅつ お

きかん はい

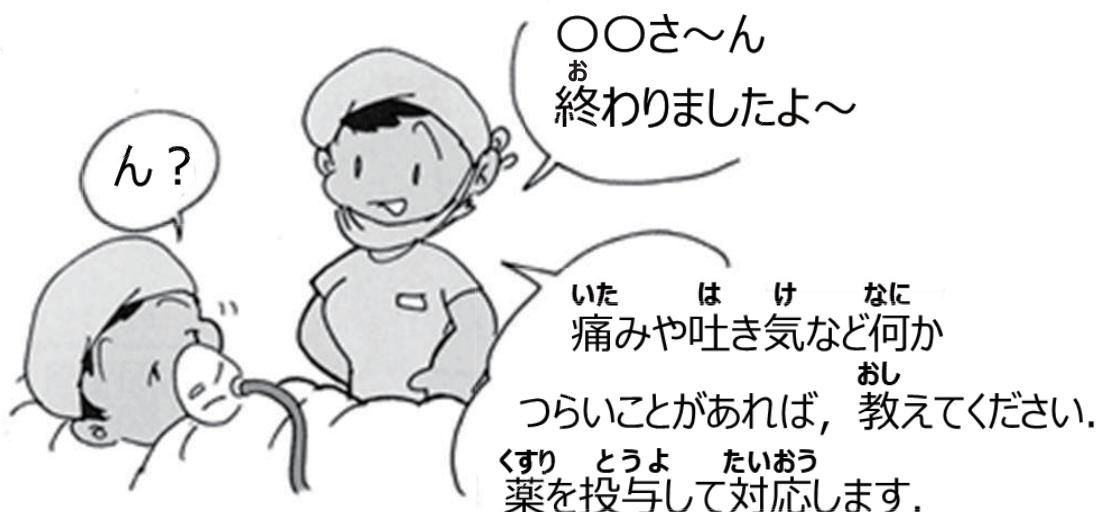
ぬ

手術が終わったら、気管に入っていたチューブを抜きます。

すぱっ



ますい さ びょうしつ もど
麻醉から醒めたら病室に戻ります。
ちよくご さ おば
(直後はぼんやりしていて、醒めたときのことを覚えていないこともあります)



い は きず かのうせい
チューブを入れることで歯を傷つける可能性があります。
は い ば さ ば かた ますい かい
グラグラしている歯、入れ歯、差し歯がある方は麻酔科医に
し お知らせください。



くち ひら かた あご いた かた くび うご かた
口が開きにくい方、顎に痛みがある方、首が動かしにくい方、
くび しゅじゅつ う かた ますい かい し
首の手術を受けたことがある方も麻酔科医にお知らせください。

た ますい がっぺいしょう
その他の麻酔の合併症として、つぎのようなものがあります。

のど にち かいふく
喉のいたみ … 1～2日で回復します。

こえ にち かいふく
声のかすれ … 1～2日で回復します。
かいふく しゅじい つた
もし、回復しないときには主治医に伝えてください。

は け ずつう かんごし つた くすり
吐き気、頭痛、めまい … 看護師に伝えて薬をもらってください。

- これらは、どんなに丁寧に麻酔をかけても、生じことがあります。
- 麻酔の安全性は証明されていますが、生命に関わる状態になることがあります（15万例につき1例の割合）。